

東京都立福生高等学校定時制課程 令和4年度学校経営報告

<目標への取組と自己評価>

項目	目 標	取組と自己評価	達成状況
学習指導	一人1台端末を活用し、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業改善や授業力向上を 相互の授業公開や他校の指導教諭の授業見学により実現する。また、他校の研修会に参加し、基礎学力定着の方策を検討・実践する。	① 年間3回以上の教員相互の授業参観を推奨。 ② 他校の指導教諭の授業見学会に積極的に参加した。 ③ 研究授業後の研究協議では「主体的、対話的で深い学び」についての理解を深めた。	A
	授業内容の定着が不十分な生徒対象の補習・補講を日常的に実施し、基礎・基本の定着を図る。また、毎学期家庭に成績等を郵送し、生徒の学習状況等の共通理解を図ることにより、中途退学者を未然に防ぎ、個別の学力伸長とともに進路実現を図る。	① 教科担当者と担任との連携を密にして、生徒の学習状況を把握した。 ② 夏季休業期間中に5科目10講座の講習を実施。 ③ 保護者等への連絡や家庭訪問を通して、生徒に関して共通理解を図った。 中途退学者4名（昨年度5名）	A
	教育のDXを推進し、知識習得型の学びと 探究 型の学びのベストミックスを図る。	① Teams を活用したオンライン健康調査票の実施 ② 全学年で双方向のやり取りによるオンライン授業を実施	B
広報活動 募集活動	教務部を中心として授業公開・学校説明会等の広報活動と募集活動を組織的に行う。随時、学校見学を受け付け、近隣中学校訪問を継続する。学校案内・ポスター・学校紹介DVDを作成し、各行事毎に写真等をHPに掲載し、学校紹介を充実させる。	① 1,2学期に学校案内、学校紹介DVD、ポスターを更新した。 ② 11月1日と12月3日に学校説明会を実施した。参加者数は36名。（昨年度15名） ③ HPリニューアルを実施。93回更新。生徒会活動等をPRした。 ④ 教務部を中心に中学校訪問18校行った。（昨年度15校） ⑤ 1,2学期の授業公開において、近隣中学生、地域の方々を中心に13名来校した。（昨年15名） ⑥ 年間を通じ、随時受付により学校見学を実施した。	B
生活指導	生活指導指針に基づき、生活指導・保健部と学年が連携して規範意識を育成するとともに基本的な生活習慣の確立を図る。	① 各学期毎の面談をはじめ日常的に個別指導を行い、生徒理解を推進した。 ② 生活指導・保健部を中心に、HRや集会での指導、巡回指導及び校門指導により、規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立を図った。 ③ 「身に付けさせる規律・規範」に関する全体計画に沿って組織的に指導を進めながら、授業をはじめ各種行事等における時間を守る意識を向上させ、授業規律を確保するための指導を継続して行った。	A
	いじめ・体罰を許さない校内の雰囲気や教職員・生徒・保護者で共有し、多様な価値観を認め合う指導を行う。	① 集会やHR、特別授業での生徒への指導や、保護者への通知文等でいじめ・体罰を許さない学校の方針を示した。 ② 教員対象の体罰防止研修（2回）と体罰に関する全校指導を2学期に実施した。	A
	生命を尊重する心の育成やSOSの出し方に関する教育などストレスへの対処方法を身に付けさせ、自殺予防を図る。	① 生徒は1学期末に自殺予防のDVDを見て、生命尊重とSOSの出し方について学んだ。 ② 各学期の始まりに欠席した生徒の所在を確認した。 ③ 教育相談委員会により、教員間で情報交換を徹底した。	B
特別活動	体力テストや 球技大会 等の体育的行事を計画的に実施し、 体力向上を進めるとともにチャレンジ精神を育成する。	① 体育の授業内で体力テストを実施し、体力向上に努めた。 ② 1学期にスポーツ大会を実施し、体力向上を図った。 ③ 各部活動指導を積極的に進め、その成果として大会に参加し、2部全国大会に出場した。	A
その他	計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、年次有給休暇の計画的な取得を推進する。	① 業務の効率化を図り、週あたりの在校時間が60時間を超える教員はいなかった。	A

<学校運営連絡協議会委員評価>

学校が良くなったと答えた協議委員（全7名） そう思う 7名

<数値目標とその結果>

数値目標	4年度目標	4年度実績	3年度実績	2年度実績
授業満足度	92%以上	89.5%	91.1%	86.4%
中途退学者	10名以下	4名	5名	7名
進路決定率	90%以上	94.2%	86%	88%
全国大会出場	1部以上	1部	2部	0部
一次入試応募倍率	1.0倍以上	0.37倍	0.33倍	0.33倍

<次年度以降の課題と対応策>

項目	課題	対応策	重要度
学習指導	学習に関して課題のある生徒の対応の充実と新学習指導要領への対応	① 教科担当者が対象生徒に対して、日頃から声掛けを増やし、授業でわからない内容についてはその日のうちに対応する。 ② 課題のある生徒対象に長期休業中に補習等を行う。 ③ アクティブラーニング型授業による「主体的、対話的で深い学び」の展開と観点別評価の定着を図る。	A
募広集報活動	組織的な広報活動と募集活動	① 教務部を中心として授業公開・学校説明会等の広報活動と募集活動を組織的に行う。 ② 随時学校見学を受け付け、近隣中学校訪問を継続する。 ③ H Pの更新を積極的に行い、学校紹介を充実させる。	A
生活指導	規範意識の育成と基本的生活習慣の確立、教育相談の充実	① HRや集会での指導、巡回指導及び校門指導により、規範意識の向上と基本的生活習慣の確立を図る。 ② 授業をはじめ各種行事等における時間を守る意識を向上させ、授業規律を確保するための指導を継続して行う。 ③ スクールカウンセラーの積極的活用により、不登校傾向のある生徒の心の支援を行う。	A
特別活動	部活動の活性化	① 年度当初から1学期の参加は年々増えているが、2学期以降の参加が継続できていない。部活動参加が2学期以降も継続できるように、活動内容を見直す。 ② 部活動の成果をH P等により積極的にP Rする。	B
進路指導	進路に対する意識向上	① 組織的な対応を継続し、担任及び進路指導部による個別指導を低学年から計画的に実施することにより、生徒の進路に対する意識向上を図る。 ② 面談週間を活用して生徒個々の状況を把握し、進路の意識向上を推進する。	B
その他	学校評価アンケートの改善及び検証	① 今年度見直した地域対象の学校評価アンケート内容の検証と保護者対象のアンケート回収の方法の変更の検証を行い、さらなる改善を進める。 ② これまで以上に、地域との連携を強化する。	B
	中途退学者の予防に対する対応	① 都教委主催のグループエンカウンターなどを活用し、1年生の中途退学者数の減少を図る。 ② 面談週間を活用し、生徒個々の状況を把握して、担任を中心とした組織的指導を継続し、帰属意識を向上させ中途退学者数の減少を図る。 ③ 定期的に家庭へ成績等を通知することにより、保護者との共通理解を図り中途退学者の減少を図る。	A